

Q&A

学会当日における発言機会にも男性優位, 健常者優位の傾向があります.

それを是正する模索として, インターネット上にて
発表に対する質問とコメントの事前受付を試みます.

本発表の情報保障の為の資料が大会ホームページに掲載される,
凡そ8月31日以降から大会開催の前日9月6日まで,
投稿フォームを開設します.

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSddjeFe_WtpUUL5EanGDSsM4Pseqsq8MlsyviihnZebP4Selg/viewform

当日の質疑応答の時間は一部 (最大半分程度?) を
その返答に充てたいと思います.

社会モデル、あなた、わたし

第16回障害学会
2019.9.7 川添 睡

問い

- ① 社会モデルが説明されるとき、どうして頻繁に社会モデルと矛盾するような事柄と結び付けて同時に語られるのだろうか？
- ② 社会モデルは社会に対する強い問題提起をしているのに、どうして健常主義者は社会モデルを笑顔で説明出来るのだろうか？

障害は個人ではなく社会にあります。

なので、私たち健常者は障害のある人に対して
どのような環境を用意したらいいか考えましょう

社会モデル: 社会が変わるべき >健全者文明の否定の要素があるはず
健常(主義)者が自身の立場を脅かされると感じないならば、

社会モデルの、または障害される私たちへの無力化が働いていないか？

発表の構成

社会モデルをこう考えている, という表現と疑問の提示

- ① みえない障害,
- ② 軽度あるいは重度障害
- ③ 合理的配慮の要件である個別性

社会モデルの無力化と深く関わる語り手の振る舞い, 差配の政治
声掛け・サポート運動

まとめ: 無力化と向き合う時に大切だと思うこと

社会モデルのベクトル性

問題と向き合う時の, 考え方や方向性, ベクトル

↔ "問題" や特別な状況 (有利不利含め) を「個人的な出来事」とする
人と状況を結び付け, 封じ込める態度, (個人モデル)

「"問題" があるひと」から「その人の周囲の人」へ...

> 「周囲の人」から「周囲の人の周囲にいる人」へ...

> 「周囲の人の周囲にいる人」から「社会の空気や制度」へ.....

(自分自身の事情・望みも話に含めて) 問題を大きく, 広げていく姿勢
“より広いものへ” と意識を向けていく実践

みえない障害？軽度の無力化？

みえない障害 (見えない障害)

特定の個人を研究対象に「その人のみえない障害」を特定する実態

>なぜみえないものを個人からみいだそうとするのか？

障害の程度 (重度, 軽度) を社会が判定する

「私 (社会) はAさんを虐めているが、
Bさんへの虐めよりは小さな虐めだ」という自己評価？

>社会 (の主流派に属する価値観や主体) は、
その様な評価を行える立場にそもそも相当しないのでは？

>普遍的な定量化をするという行為自体がもつ覇権的な問題

「わたしの怒りを盗むな」①

配慮や過重な負担の考慮には「個別に」判断や実施をする
(Cf: 障害者差別解消法)

個別の交渉でも前例性や他者との一貫性, 一般性を意識せざるを得ない

「今回限り自分が何とかかなるなら」と個別的に区切れない

普遍的な不平等の構造がある相手には, 一般的な理念の説示も

指摘をかわすための道具として, 交渉の個別性を持ち出す組織

「私への配慮方法を今後の普遍的対応の前例とはしない」

>権力のある側は事例を取捨選択できる, 不均衡な構造が交渉にはある

「わたしの怒りを盗むな」②

”デリバリーヘルスのサービスを会場に呼ぶアート”への抵抗

セックスワーカーは多くがセックスワークを知人に公開していない
デリバリーヘルスの方を不意打ちで不特定多数のいる場に出させる
事は、とても多くのリスクと恐怖を負わせる

“何人かゲストを呼んできたけれど、今回が一番真のアカデミーでした”

「わたしの怒りを盗むな (Don't exploit my anger)」

他人のリスクを弄び、それに対する怒りも

「アート」や「アカデミー (学問)」として消費する、搾取への抗議

*川添の「盗まれた」とは、(個別性にかこつけて) 指摘した事をなかった事にされた、であり意味を元の言葉から少しずらしている事に注意

差配の政治①

「社会を変える」という話をしつつ、語り手自身が現在個人化している特権には話が及ばないように、「社会」の想定範囲を狭めている

- ・ 組織の中で予算をどのように配分するかの自由
- ・ メンバーに役職を割り振ったり、組織構成自体を管理する権利
- ・ 自分たちの立場について、主体的に意見を広く伝える手段
- ・ 「問題とは何か」「自分の役割とは何か」を設定できる主導権

特権はただ単に再分配されても、譲られた者が健全主義に組み入れられ、無力化する社会のシステム自体は持続する

> 今とは異なる社会のあり方、権力の散消を探す必要がある

> 特権を手放さない、他へと開きたがらない人や組織は信用できない

差配の政治②

自組織が今現在いろんな排除によって成り立っている
という問題の設定ではなく、

「自組織は社会の他者を糺す役割だ」と自分自身を定義し
声掛けを行う、差配する

「声かけ・サポート」運動 (2018年には交通事業者76社局, 障害者団体
を含む6団体で実施, 国土交通省後援)

“JR東日本では声かけ・サポート運動へのご協力をお願いしております。
お体の不自由な方などお困りの方を見かけましたら、
お手伝いしましょうか? といった積極的なお声掛けをお願いいたします。
また〇〇駅では目の不自由なお客様などが鉄道をご利用する際、
駅係員によるご案内を実施しております。

ご案内を希望するお客様は恐れ入りますが駅係員にお申し出ください。”

差配の政治③

- ① 駅という設備に対する事業者の責任, 駅員の人件費も含めたコストを各利用者に押し付け
- ② 事業者にとって都合のよい振る舞いを繰り返し例示して駅の各利用者を, 支援/被支援という限定された役割に誘導
- ③ 駅構内のスピーカーという音声情報のプラットフォーム自体を, 「駅事業者や健常者の立場からの情報」で占有

健常者の客 >支援を提供すべき者

駅と社会から障害される客 >健常者からの支援を利用する者

事業者 (健全者が前提) >支援を支援するもの ...という役割の差配

「社会」をここではないどこか, 自分ではない誰かに設定しない
世俗の権力の移動について, 今ある社会と自分とを繋げて話すこと

無力化の政治に向き合う上で大切なこと

① 問題を社会モデル「に」求めない

「社会モデルの限界や瑕疵」と封じ込め、外から操作する姿勢から離れ、私たちが社会モデルの言葉に何を期待し、取捨選択してきたか、すべきかという自分との関わりとして話し合いませんか？

② 私たちの中にある不平等に向き合う

「地域でみんなと暮らす」という夢にある階級

>入管の「施設」は「地域」なのか？

「(“障害者”でも) 経営者, アスリート, 学者になりたい」という夢

③ 身体と経験を日常的に感じ取る作業, それを再度社会的な文脈に置きなおす作業を大事にする

今の社会では健常, 有力化と呼ばれる経験も含め, フェアさを問い直す

謝辞

もしも発表中で紹介した文章等について、引用元の文章等を書いた人やそれに関係のある人が「私の使い方がおかしかった」などと感じましたら、大変すみませんが教えてください (kawazoe.n.aa@gmail.com)。私にはそのやり方について対話に応じる義務があります。

今回の発表に対して、相談に乗っていただいた方々 (名前不記載)、ありがとうございました。

スライド資料内ノートには読み上げ原稿などが書いてあります

参考文献

障害の社会モデル

内閣府「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針 - 内閣府」

<http://web.archive.org/web/20190722143004/https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai/kihonhoushin/honbun.html>

青い芝の会 行動綱領

日本脳性マヒ者協会全国葵芝の会福岡青い芝の会支部「行動綱領」

<http://web.archive.org/web/20110712170813/http://www.kumin.ne.jp/jago7526/aoishiba2.html>

みえない障害

わたしのフクシ。編集部「見えない障害バッジ | わたしのフクシ。」

http://web.archive.org/web/20190723103516/http://watashinofukushi.com/?page_id=44

軽度障害・重度障害

厚生労働省「主な用語の定義（平成 30 年度障害者雇用実態調査）」

<http://web.archive.org/web/20170716134751/https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/111-2a.pdf>

参考文献

合理的配慮

内閣府「障害を理由とする差別の解消の推進に関する基本方針 - 内閣府」

<http://web.archive.org/web/20190722143004/https://www8.cao.go.jp/shougai/suishin/sabekai/kihonhoushin/honbun.html>

わたしの怒りを盗むな

「わたしの怒りを盗むな」有志, 2016 「Don't exploit my anger !」

<http://web.archive.org/web/20161207122059/http://dontexploitmyanger.tumblr.com/>

「声かけ・サポート」運動

民営鉄道協会, 2018 「「声かけ・サポート」運動 強化キャンペーンの実施について」

<http://web.archive.org/web/20190810170513/https://www.mintetsu.or.jp/association/news/News-30-koekake.pdf>

東京商工会議所「声かけ・サポート運動（賛同企業を募集しています） | 東京商工会議所」

<http://web.archive.org/web/20190723041830/https://www.tokyo-cci.or.jp/about/koekake/>

神奈川県「「声かけ・サポート」運動強化キャンペーンについて - 神奈川県ホームページ」

<http://web.archive.org/web/20190101210018/http://www.pref.kanagawa.jp/docs/gd6/cnt/f180821/koekakesapo-to.html>

JR横浜駅構内アナウンス, 2019